

## 専門家によるモニタリングコメント・意見

## 【医療提供体制】

- PCR 検査の陽性率は、検査体制の指標としてモニタリングしている。陽性率の上昇は、検査数が減少したためではなく、新宿の検査スポットなどにおける積極的疫学調査による新規陽性者数の増加の影響を受けていると思われる。
- 第一波(3月から緊急事態宣言解除まで)では、患者の急速な増加に伴い、東京ルール適用件数も増加したため、今後の推移に注意が必要である。
- 入院患者数は新規陽性患者数の増加に伴い、増加傾向にあるが、現状ではレベル1の病床確保体制(1000床)で対応している。

また、第一波では、人員を含めた病床の準備に相当の時間を要した医療機関が多かった。その経験から、今後の患者数の増加に備え、早期に医療機関に対しレベル2(3000床)への準備を依頼している。
- 重症患者は減少傾向にあるものの、今後もし、若年層から高齢層に感染が移行すると、重症患者が増えるので、医療体制を圧迫するため注意が必要である。
- 緊急事態宣言解除直後と比べ、入院調整にかかる件数・時間が増加している。